

白内障手術

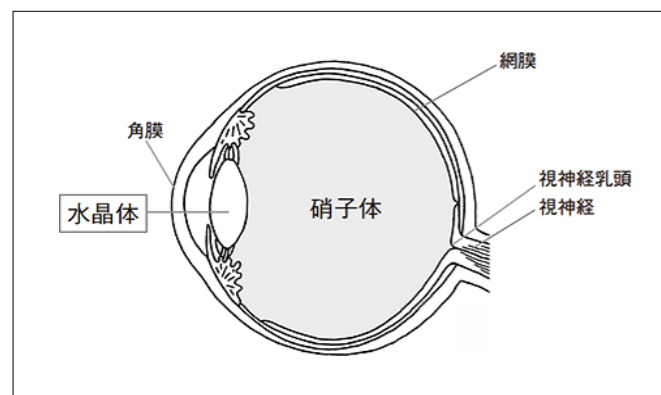
眼科 主任医長
にしのみさき
西野 真紀

白内障手術について

白内障とは

白内障は、目の中のレンズの役割をしている水晶体が白く濁ってくる病気です。水晶体の成分であるたんぱく質が活性酸素によって変化して混濁します。

原因で主なものは加齢で、早い人では40代から、80代では100%の人が白内障を発症しています。若年者でも外傷や糖尿病などにより発症することがあります。水晶体の混濁のため、かすんだり、物が二重に見えたり、まぶしく見えるなどの症状が出現し、進行すると視力が低下します。水晶体の濁りは、薬で取ることはできません。そのため、最終的には白内障手術を受けることとなります。



眼球の構造

白内障手術について

白内障手術は、昔は「見えるようになれば良い」とされる開眼手術で、ずいぶん進行し見えなくなってから手術をおこなうのが一般的でした。しかし、現在では「いかに見えるようになりたいか」を選択する手術になっています。手術機器の進化により小さな切開創で

目への負担が少なく、安全に手術が受けられるようになりました。このため、ご自身が見え方に不便を感じるようになった時点で、手術を考えても良いでしょう。

徳島市民病院での眼科手術は、日帰り、入院ともに対応しています。どちらでも、白内障の手術そのものには違いがありません。患者さんに一番負担がかからない方法を選択するのが良いでしょう。たとえば、一人住まいの人やご高齢の方、あるいは全身疾患がある人は、入院をして手術を受けた方が安心です。

手術方法について

手術は、基本的には局所麻酔で行います。

白内障手術には、超音波乳化吸引術と水晶体囊外摘出術の2種類があり、当院ではほとんどの症例で超音波乳化吸引術をおこなっています。

超音波乳化吸引術では、2.75ミリの小さな切開創を作成し、濁った水晶体を超音波で碎きながら取り除き、最後に眼内レンズを挿入します。目への負担が少なく安全性が高い手術です。



手術中の様子

非常に進行した白内障の場合、超音波では濁りを取り除くことが出来ないため、水晶体囊外摘出術をおこないます。この方法では、大きな切開創を作成し水晶体をまると摘出します。

眼内レンズについて

白内障手術では、最後に眼内レンズを挿入しますが、眼内レンズには主に単焦点レンズと多焦点レンズがあります。

当院では、保険適用である単焦点レンズを取り扱っています。どのような見え方をご希望なのか、ご相談の上で手術をおこなっています。



眼内レンズ

手術後の生活や術後合併症について

術後しばらくは洗顔・洗髪の制限はありますが、術後2日目からデスクワーク程度のお仕事が可能です。見えるようになれば、車の運転も可能です。

白内障手術は、大多数の患者さんにとって視力を回復できる安全な手術です。しかし、術後に合併症が生じることもありますので、紹介医師と連携して術後3か月程度までは定期診察をおこなっています。

取り扱っている主な疾患

当院は眼科疾患全般を取り扱っていますが、主に以下のようなものがあります。

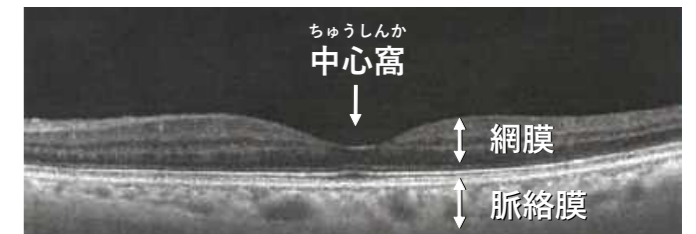
- 一般診療：角結膜疾患・眼瞼疾患・白内障・緑内障・ぶどう膜炎・糖尿病網膜症・加齢黄斑変性症、視神経症など
- 手術加療：白内障・眼瞼下垂・眼瞼内反症・翼状片・斜視など
- レーザー治療：糖尿病網膜症・網膜静脈閉塞症・中心性漿液性脈絡網膜症・網膜裂孔・後発白内障など

眼科でおこなう主な検査

視力検査や眼圧検査など基本の検査以外に、特殊検査もおこなっています。

視野検査	緑内障や頭蓋内疾患の診断や経過観察のために行う
OCT (光干渉断層計)	網膜の断層を確認することにより、網膜中心部の詳細な状態を把握
蛍光眼底造影検査	造影剤を使用し、網膜血管の障害部位を把握
ERG (網膜電位図)	網膜全体の機能を把握
眼筋機能精密検査	左右の眼球運動を把握

基本検査と特殊検査



OCT (光干渉断層計) で観察できる網膜の断面像の例

その他、頭部CTやMRIで頭蓋内の検査を行う場合もあります。

診療・手術実績 (2020年)

手術

白内障手術	125件
眼瞼手術	9件

レーザー治療

網膜光凝固術	18件
後発白内障術	45件
虹彩光凝固術	1件

治療方針

見え方を改善することで、生活の質を向上させることを目指しています。病状に応じた治療法を説明し、ご理解・ご同意を得たうえで治療をおこなってまいります。紹介医師や地域医療機関との密接な連携により、さらに質の高い医療を提供してまいりたいと考えています。